

資本主義と貨幣経済

黒田インターナショナル

黒田 毅

全ての物理的存在を貨幣対価において定義する資本主義は、為替取引における通貨変動とともに、全ての現実を与える。生活物資が、貨幣交換において存在すること共に、経済主義という現実を有する。自由経済システムは、これら全ての経済活動の自由を与え、自由貿易システムは、世界の市場の統一を与える。これらにおける考察は、全てが貨幣との交換においてその存在が与えられることで有り、資本主義における所有の容認は、これらが全ての現実を支配することを与えるものである。

哲学における考察を与えることは、利益主義と貨幣における存在の許容は、全ての現実を与えることは、存在の倫理的判断において矛盾を与える。これらは生存に基盤する経済システムが、所有という現実を基盤とし、経済主義における富の所有の容認とともに、利益主義という現実の基盤を有する。

これらは経済という基幹が、所有と利益という生存の進捗性を有することで有り、進歩という現実は生存を克服し、新たな経済システムの構築を可能とできるはずである。これらは現状のIoTやインダストリー4.0、ソサエティ5.0における正しい要求される理解基盤である。またこれら新しい革命的現実は、上記考察とともに、新しい現実の創造を可能とするのである。

これらは生存要求と本能における経済の構築が、一切の歴史的過程と共に固定化していることで有り、利益追求はその進捗性である。これらは動物性における生存要求を基盤とした経済システムから、その知性や理性における経済システムの創造を提案できるのである。

これらは生活需要を基盤とした消費は、生存の補償を行政が提供するとき、その正しいコスト要求と判断とともに、経済が競争から需要への要求へと変化する。自由経済システムにおける自由な購買は、その多様な製品生産と流通を与え、経済が目的という現実を生むものである。しかし経済が目的から必要性へと変化する、人々が経済でなく、人生と未来を目的とすることは可能である。

これらはマルクスの資本論が、生存という原始性における誤りから、人類の進捗性を基盤とするとき、その理性の進歩が、その新たな可能性を与えることは存在するはずである。これら倫理的進捗性は、富の独占や、富の崇拜から、共生や共存という新たな理想への転換を与

えることはできるのである。

自由は制限を得ないことで有り、その選択が許容されることである。強権性は、自由を否定するものである。これらは自由経済システムへの考察であるが、経済はその生活需要を賄うことが本来の現実で有り、これら目的の矛盾は、経済が生活と社会を完全に支配していることで有り、それら富は技術進歩とともに、対立と競争における現実を有するのである。

アメリカにおける競争社会は、その勝者への賞賛を社会として有するのである。これら競争は、競争を得ないことと完全に相違するのである。競争が進歩を生むことは、必ず真実である。しかし、競争は必ず落伍者を生むのである。これら社会の2分化は、エリートと社会的弱者という2つの現実において世界を支配することへ移行しているのである。

これらは経済に基盤するヒエラルキーの形成を世界が有することで有り、富という基準が現実の決定を有することは真実である。